



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

## 23日

ドイツやギリシャに関する報道が続き、欧州債務危機への懸念後退で、欧州株価が上昇。ユーロが買われた。リスク志向改善によるクロス円の上昇も確認された。ドル円は、オセアニア通貨につれた円売り、ユーロドルにつれたドル売りで方向感に乏しかった。

## 24日

モデル系ファンドからのドル買い・円売りをきっかけに円安が進んだ。また、市場では「財務省が25日に発表する貿易統計で、2011年通年の貿易収支が31年ぶりに赤字に転じるとの観測から円全面安となった」との指摘があった他、米WSJが「仮に貿易赤字が続けば、日本は安定した債権国から純債務国に転じる可能性がある」と報じたこともクロス円の円売り材料として意識された。

## 25日

FOMC後の声明で「少なくとも2014年後半までFF金利を異例の低水準にすることが正当化される可能性が高い」と指摘し、実質ゼロ金利政策の期間を前回の「13年半ば」から延長した。米金融緩和が長期化するとの見方から全般的にドル売りが強まった。

## 26日

前日のFOMCを受けて、米国の超低金利政策が長期化するとの見方から全面的にドル売りが進みやすかった。ドル円は77円台半ばに観測されていたストップロス巻き込んで下落。米新築住宅販売件数などが、市場予想を下回ったこともドル売り材料だった。ただ、ユーロドルは1.3200ドルに観測されているオプションのバリアに絡んだ防戦売りなどに上値を抑えられた。

## 27日

10-12月期の米GDP速報値が予想を下回ったことや、ダドリーNY連銀総裁が「最近ではインフレに著しい減速が見られる」と述べたことがドル売り材料として意識された。ユーロドルは上昇、ドル円は値を下げた。NYダウが値を下げた影響もあり、クロス円も上値が重かった。

## 総括

先週のドル円相場は上値が重かった。米ウォールストリート・ジャーナル紙が「日本の輸出大国時代の終わり」とのタイトルで、「仮に貿易赤字が続けば、日本は安定した債権国から純債務国に転じる可能性がある」と報じたことを材料に、海外勢が円売り・ドル買いを進めた。2011年の日本の貿易収支が31年ぶりに赤字に転落したことも相場の支えとなり、一時昨年11月29日以来の高値となる78.288円まで値を上げた。ただ、そのあとは円を買い戻す動きが優勢に。米連邦準備理事会(FRB)は25日、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の声明で「少なくとも2014年後半までFF金利を異例の低水準にすることが正当化される可能性が高い」と指摘し、実質ゼロ金利政策の期間を前回の「13年半ば」から延長した。米金融緩和政策が長期化するとの見方から、円買い・ドル売りが進んだ。また週末発表された米GDPが予想を下回ったことも、ドル売りを進める一因となった。

## 先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回数	改定値	予想値	結果
24日	24:00	火	USD	リッチモンド連銀製造業指数	*	1月	3		7	12
25日	18:00	水	DEM	IFO企業景況感指数	*	1月	107.2		107.6	108.3
25日	26:30	水	USD	FOMC、終了後政策金利発表	*	*	0-0.25%		0-0.25%	0-0.25%
26日	5:00	木	NZD	NZ中央銀行、政策金利	*	*	2.50%		2.50%	2.50%
26日	22:30	木	USD	耐久財受注	前月比	12月	3.8%	4.3%	2.0%	3.0%
26日	24:00	木	USD	新築住宅販売件数	年率換算件数	12月	31.5万件	31.4万件	32.1万件	30.7万件
27日	22:30	金	USD	四半期実質国内総生産(GDP、速報値)	前期比年率	10-12月期	1.8%		3.0%	2.8%

一言コメント・・・12月米新築住宅販売権数や10-12月期米GDP速報値が予想を下回ったことを受け、ダウ平均が軟調に推移しました。

## 先週の注目された要人発言

24日18:52 ベニゼロス・ギリシャ財務相「2月1日までに民間との債務交換交渉完了を目指す」  
 24日22:38 レーン欧州委員「ギリシャ債務にとって集団行動条項(CAC)はひとつの選択肢」  
 25日1:18 ダンティースNB理事「SNBは決然とスイスフランの上限設定を実行する」  
 25日10:52 スワン豪財務相「消費者物価指数(CPI)は追加金融緩和余地を作り出した」  
 25日18:30 【MPC議事要旨】「0.50%の政策金利の据え置きを9対0で、資産買い入れプログラムの規模の維持を9対0で決定」  
 26日2:29 【FOMC声明】「少なくとも2014年後半までFF金利を異例の低水準にすることが正当化される可能性が高い」  
 26日2:33 【FOMC声明】「委員会は金融政策の非常に緩和的なスタンスを維持すると予想」  
 26日4:39 バーナンキFRB議長「必要に応じて一段の措置を取る用意がある」「債券購入の選択肢は検討中」  
 26日5:04 【RBNZ声明】「世界の状況をめぐる不確実性が続いていることや、国内需要が緩やかなペースであることを考慮すれば金利据え置きが賢明」  
 27日9:21 ボラードRBNZ総裁「市場では向こう1年間の利上げを予想していない」  
 27日14:37 ラッカー米リッチモンド連銀総裁「2014年終盤までの異例の低金利は必要ないだろう」  
 27日19:12 レーン欧州委員「ギリシャの交渉合意は、本日でなければ週末を予想」  
 28日1:23 ダドリーNY連銀総裁「最近ではインフレに著しい減速が見られる」  
 28日2:03 ノボトニー・オーストリア中銀総裁「次回の3年物流動性供給オペは前回と同じ5000億ユーロ程度の需要があるだろう」

一言コメント・・・FOMC声明でFF金利を異例の低水準とする期間が2013年半ばから2014年後半まで延長されたことを受け、ドルが全面安となりました。

## 今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回数	改定値	予想値
31日	23:00	火	USD	ケース・シラー米住宅価格指数	前年同月比	11月	-3.4%		-3.2%
31日	23:45	火	USD	シカゴ購買部協会景気指数	*	1月	62.2		63.0
1日	22:15	水	USD	ADP雇用統計	前月比	1月	32.5万人		18.5万人
1日	24:00	水	USD	ISM製造業景況指数	*	1月	53.9		54.5
3日	22:30	金	USD	非農業部門雇用者数変化	前月比	1月	20万人		15万人
3日	22:30	金	USD	失業率	*	1月	8.5%		8.5%
3日	24:00	金	USD	ISM非製造業景況指数(総合)	*	1月	52.6		53.2

会員専用サイト内のレポートでGI24のコメンテーターが注目材料をご紹介します！  
 今週の注目は・・・米雇用統計

# 週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで  
ご確認ください

- ・ 今週のドル円相場見通し
- ・ 今週のGI24コメンテーターの一言
  - － 荻野金男
  - － 和田仁志
- ・ 今週の注目経済指標
- ・ 今週のテクニカルポイント
- ・ 先週のコメント
  - － アニシモワ・タマラ
  - － 今井雅人

情報提供元：グローバルインフォ

グローバルインフォ株式会社より提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、グローバルインフォ（株）は一切の責任を負いません。